

報告事項

2024 年度事業報告

I 総括

2024 年度の当会の活動は、全国大会 (JIA 建築家大会 2024 別府) や支部大会の開催、地域密着の幅広い公益事業、さらに国際交流活動をはじめ、本部・支部・地域会とも、コロナ禍以前と概ね同様の状況に回復することができました。

活動の基本テーマとして掲げる「頼りになる建築家、頼りになる JIA」にもとづき、社会に寄り添う建築家の仕事と活動を市民の方々に理解していただくために、SNS などの新たな媒体も活用した情報発信を積極的に行いました。

加えて、将来を支える若い世代の人材育成に力を入れるとともに、会員の活動への参加と会員間の交流を促進しました。また、将来の建築家資格制度のあり方についての議論を進めました。

[2024 年度の重点施策]

本年度に実施した重点施策は以下の通りです。

1. 「頼りになる建築家、頼りになる JIA」の社会への発信

「頼りになる建築家、頼りになる JIA」のテーマに沿って、社会に向けた情報発信の拡充に力を入れています。

本年度は、SNS 媒体（インスタグラム）による動画コンテンツの活用はじめ、本部ホームページの整備を進めました。オンライン活用によるセミナーやイベント等の開催を通じて、広く社会に対して積極的な情報発信を行っています。

2. 「地域に根ざした」公益事業の推進

建築文化の振興のためのイベント開催、まちづくりへの支援、地震被災地の復旧・復興への支援、建築物の保存・再生活動、消費者に対する建築相談をはじめ、「地域に根ざした」さまざまな公益事業を支部・地域会を主体に実施しています。

本年度は、本部による表彰事業に加えて地域ごとに主催する数多くの表彰事業を実施したほか、自治体や地域の団体への支援や提言、建築相談活動等、幅広い活動を行いました。

なお、2023 年 5 月、2024 年元旦と続けて発生した能登半島地震に対して、地域の関係団体等と連携して、復旧・復興に向けたイベント等の開催を支援しました。

3. 「人材の育成と活性化」施策の充実

各種教育・育成プログラムの拡充と合わせて、建築に係る人材の育成・活性化を推進しています。特に将来の建築設計界と JIA を支える若手の育成を重視しています。

本年度は、「JIA リフレッシュセミナー」、受賞作品に関する見学・講習会「JIA フィールドトリップ」の開催に加え、建築家継続職能教育 (CPD) プログラムの拡充とともに、多くの方の

受講を容易にするセミナー等のオンライン化、アーカイブス化を進めています。

また、学生に会員事務所における実務体験を提供するオープンデスクの実施や、支部、地域会による学生との交流による学生支援を強化しました。さらに、会員同士の交流促進と公益活動への寄与を目的とする会員と活動に関する情報データベース「JIANet」の次年度初の提供開始に向けて最終的な準備を進めています。

4.「業務環境や社会の変化」への対応

建築界は、近年の技術革新や市場の変化への対応、さらに大きな社会問題への取組みが求められています。

本年度は、2024 年 1 月に公示された設計業務報酬基準(告示第 8 号)の課題を整理しています。また、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の普及促進のため、国交省等が主催する各種会議への参加のほか、建築設計三団体が連携して BIM の活用に関する具体的な検討を実施しました。

建築界においても重要課題である「カーボンニュートラル」実現に向けて、支部との連携によりオンライン方式のセミナーを開催し、会員以外の多数の方々の参加も得ています。

5.「海外ネットワーク」の強化と「海外情報」の収集

UIA(国際建築家連合)や ARCASIA(アジア建築家評議会)、海外建築関連団体等とのネットワークの強化とあわせて、海外の情報収集や調査研究活動を実施しています。

本年度は、UIA 国際フォーラム(マレーシア)や ARCASIA フォーラム(スリランカ)等の国際会議への参加、全国大会開催にあわせた海外協定締結団体との国際会議開催に加えて、支部・地域会による海外団体との交流を行いました。

6.「建築家資格制度」のあり方の検討

「建築家資格制度(登録建築家)」について、現行制度の適切な運営とともに、統括設計者の職能の明確化と社会からの認知向上を目指して、今後の建築家資格制度のあり方の検討を続けています。

本年度は、前年度に引き続き、理事会と担当委員会での検討に加えて、全国大会や各支部大会でのセミナー開催等により会員の意見交換を進めるとともに、外部関係団体との意見交換を実施し、課題の整理と方針の明確化を進めました。

[2024 年度の事業分野別の主な活動]

2024 年度の主な活動を事業分野別にまとめました。活動の具体的内容については、委員会・全国会議等の活動報告および支部の活動報告に別途記載しています。

1.建築環境整備事業

1)環境保全活動

建築物や都市の環境保全を目的に普及広報活動を行いました。カーボンニュートラ

ル実現に向けて、オンライン方式のセミナー「2050 カーボンニュートラル連続セミナー」開催に加え、建築物の全寿命に係る二酸化炭素の排出の減少を目指す「建築 WLCA ガイド」を発行しました。

2) まちづくり・建築物保存再生活動

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮したまちづくりをめざした活動として、自治体やまちづくり団体等への支援活動を実施しました。また、価値ある建築物の保存再生のための「文化財修復塾」による講座を運営しました。

3) 災害対策活動

近年頻発する地震等の災害に対して、引き続き、支部・地域会を中心に地域に密着した災害発生時や復興に関する支援を続けています。能登半島における 2 度の大規模震災発生に対して、建築物の保存再生に関する支援活動とともに、地域の関係団体等と協力してシンポジウム「のとボイス」の開催等を行う体制をとっています。

4) 建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等のトラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会に設置した建築相談委員会や建築相談室により、住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

2. 建築文化育成・交流事業

1) 表彰活動

「JIA 日本建築大賞・JIA 優秀建築賞」「JIA 新人賞」「JIA 25 年賞」「JIA 環境建築賞」の表彰事業を主催しました。受賞作品を収録した JIA 建築年鑑の出版(印刷版および WEB サイト版)を行いました。さらに支部・地域会では、地域の特色を活かしたさまざまな表彰事業や、支部・地域会の主催・連携による「学生卒業設計コンクール」を実施しました。

2) 交流活動

広く社会や建築関係者に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、全国大会の開催に加え、支部・地域会主体に、建築文化に関するシンポジウム・セミナーの開催、そして建築文化関連図書の出版協力やパンフレット作成等を実施しました。

3) 国際協力活動

UIA、ARCASIA の各フォーラム、海外の建築関連団体の大会・会議に参加したほか、海外協定締結団体との国際会議 (IPF) の開催、支部等による海外団体との交流も実施しました。本年度の国際活動を報告書にまとめました。

4) 教育・育成活動

学生に対する教育・育成活動として、会員設計事務所での短期実習を行う「オープンデスク」の実施、会員や建築関係者等に向けた各種講演会・セミナー等の開催といった教育・育成活動を実施しました。また、建築設計業務を志す学生同士の交流活動を支援しました。

3.建築制度整備事業

1)継続職能研修(CPD)制度運営

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定(本年度の認定プログラム総数 1,600 件)をはじめとする CPD 制度の管理・運営を行いました。さらに、会員サービスの向上、会員の職能の充実をめざして、CPD のプログラムの多様化、オンライン受講可能プログラムを増加しました(2025 年 3 月末時点コンテンツ数 65 件)。

2)建築家資格制度運営

建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度普及のための活動等を実施しました(2025 年 4 月 1 日現在建築家資格制度登録者数見込み 1,289 人)。今後の資格制度のあり方等について検討を行いました。

3)建築関連の法・制度の調査研究・提言

改定された設計業務報酬基準(告示第 8 号)の課題を整理しました。また、国交省、東京都、神奈川県及び建築設計三団体で構成する「公共建築設計懇談会」に参加し、公共建築の質の向上のための提案を実施しました。また、BIM の普及促進のため、建築設計三団体が連携して、国交省の施策への支援を実施しました。

Ⅱ 2024 年度通常総会

2024 年度通常総会を 6 月 26 日午後 2 時 30 分より 3 時 30 分まで、建築家会館1階大ホール(東京)に開催しました。正会員数 3,155 名の内、書面表決者 841 名、委任状提出者 1,065 名を含む出席者総数 1,944 名により総会が成立し、議長に渡邊太海会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

[2024 年度総会議案]

第 1 号議案 2023 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録の承認の件

第 2 号議案 協力会員の入会金・会費一部改正の件

第 3 号議案 理事及び監事の選任の件

第 4 号議案 名誉会員選任の件

Ⅲ 2024 年度理事会

2024 年度理事会を、対面で 5 回、zoom によるオンラインで 3 回、および書面審議 3 回の合計 11 回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。

[2024 年度理事会議事]

1) 第 314 回理事会(オンライン)(4 月 16 日開催)

- ①入退会者について
- ②災害対策積立資産運用規程改正案について
- ③災害対策積立資産抛出について
- ④UIA への委員派遣に関する日本建築学会との覚書更新について
- ⑤活動及び業務執行状況報告

2) 第 315 回理事会(対面)(5 月 31 日開催)

- ①入退会者について
- ②2024 年度通常総会開催及び議案について
 - ・2023 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録について
 - ・協力会員の入会金・会費一部改正について
 - ・理事及び監事の選任について
 - ・名誉会員選任について
 - ・2023 年度事業報告、2024 年度事業計画及び予算(報告)について
- ③特定費用準備資金積立資産の取崩しについて
- ④(仮称)新資格制度を推進する特別委員会設置について
- ⑤関東甲信越支部規約改正案について
- ⑥2024 年度委員会構成案について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

3) 第 316 回理事会(対面)(6 月 26 日開催)

- ①議長選任について
- ②会長、副会長及び支部長選任について
- ③入退会者について
- ④委員会委員等について

④活動及び業務執行状況報告

4)第 317 回理事会(書面)(7 月 24 日開催)

①入退会者について

5)第 318 回理事会(対面)(8 月 32 日開催)

①入退会者について

②委員会委員等就任について

③準会員・協会員入会申込書式統一について

④就業規程および定年後嘱託者再雇用規程改正案について

⑤活動及び業務執行状況報告

6)第 319 回理事会(オンライン)(10 月 9 日開催)

①入退会者について

②委員会委員等就任について

③準会員・協会員入会申込書式統一について

④後援名義使用許諾の手続きに関する取り扱い要領案

⑤活動及び業務執行状況報告

7)第 320 回理事会(書面)(11 月 5 日開催)

①入退会者について

8)第 321 回理事会(対面)(12 月 11 日開催)

①入退会者について

②新人賞審査員役職変更について

③「JIA 公益事業活動助成」採択結果について

④活動及び業務執行状況報告

9)第 322 回理事会(書面)(1 月 24 日開催)

①入退会者について

10)第 323 回理事会(オンライン)(2 月 14 日開催)

①入退会者について

②委員会委員等就任について

③CPD 細則改定について

④2024 年度本部予算(事業別)(案)について

⑤建築家資格制度細則および審査要項改定案について

⑥活動及び業務執行状況報告

11)第 324 回理事会(対面)(3 月 11 日開催)

①入退会者について

②委員会委員就任について

③フェロー会員について

④2025 年度事業計画(案)および予算(案)について

⑤五会会長会議「産学連携教育懇談会」提言について

⑥災害対策積立資産抛出について

⑦活動及び業務執行状況報告

IV 建築家認定評議会等

1. 建築家認定評議会

建築家認定評議会を計 3 回、開催しました。

議事は以下のとおりです。

1) 第 1 回(臨時)建築家認定評議会(書面審議、7 月 27 日発送、8 月 5 日回答〆切)

- ・古谷議長の互選の承認
- ・2023 年度 第2回(定期)建築家認定評議会の議事録の承認

2) 第 2 回(臨時)建築家認定評議会(書面審議、1 月 8 日発送、1 月 26 日回答〆切)

- ・建築家資格制度細則改定の承認
- ・審査要項改定の承認

3) 第 3 回(定期)建築家認定評議会(オンライン、3 月 17 日)

- ・登録建築家の認定、更新、再登録について
新規登録 申請者 7 名 合格者 7 名 (非会員 1 名)
更新 申請者 485 名 合格者 485 名 (更新率 75.2%)
再登録 申請者 30 名 合格者 30 名
登録総数は 1,289 名となり、昨年度より 134 名の減少(前年度から 9.4%減少)となりました。
正会員に占める登録建築家の割合は 36.3%(前年から 4.3%減少)となりました。
- ・ポートフォリオ上の「建築に対する考え方」の修正要望への対処の報告
- ・建築家資格制度第 7 条および第 12 条の継続審議における課題の確認
- ・JIA における、建築家資格制度の改革の検討の動きについて
- ・北海道支部実務委員会での意見交換の紹介
- ・建築家資格制度についての意見交換

2. 本部建築家資格制度実務委員会

本部建築家資格制度実務委員会は計 5 回を職能・資格制度委員会との合同で開催したほか、3 月の定期認定評議会に補佐委員会として臨席しました。

また、メール稟議による意見聴取・決裁を計 10 回、14 案件につき実施しました。

主な作業は以下のとおりです。

- ・建築家資格制度に関する細則、登録建築家審査要項、それぞれ改定案の作成
- ・資格制度のホームページに掲載する「登録申請説明書」および「申請入力の手引き」の改定
- ・新規登録対象のJIA会員、更新対象者全員、昨年度未更新による再登録対象者、これらへの申請呼掛け ならびに説明メールの配信
- ・支部実務委員会と協働しての、新規・更新・再登録申請者の各調査、確認作業
- ・計 3 回(うち 2 回は書面審議)の認定評議会の準備と補佐
- ・新資格制度を推進する特別委員会での議論に呼応し、職能・資格制度委員長と当委員会委員長の連名で意見書を提出(11 月 20 日、登録建築家と、一級建築士である統括設計専攻建築士、この両者全員に自動的に、三会統一認定による「統括一級建築士」の称号を与える、という提案)
- ・10 月 4 日 職能・資格制度委員会との共催での、JIA 別府大会マンス参加 ミニレクチャー「建築家 職能〜その未来への礎(いしずえ)を探る」の企画および実施。
- ・建築家資格制度(登録建築家)紹介リーフレットの準備。

V 本部役員候補者選挙

10 月 15 日発行の「JIA MAGAZINE 428 号」で 2025 年度本部役員候補者選挙告示を行い、12 月 16 日に役員候補者の確定について第 2 回告示を行いました。

[2025 年度役員候補者(2025 年度総会にて役員選任を審議する予定)]

(氏 名)	(所属支部)
【理事候補者】	
大山 早嗣	(再任) 関東甲信越支部
鈴木 弘樹	(再任) 関東甲信越支部
楠本 正幸	(再任) 関東甲信越支部
飯井 雅裕	関東甲信越支部
西村 和哉	東海支部
浦 淳	北陸支部
平居 晋	近畿支部
角 直弘	近畿支部
重田 信爾	九州支部
金城 優	沖縄支部
【監事候補者】	
上浪 寛	関東甲信越支部

VI 委員会活動等報告

1. 委員会活動

1) 職能・資格制度委員会

職能・資格制度委員会は計7回、うち職能・資格制度単独で2回(7/30、11/7)、本部実務委員会との合同で5回(5/24、7/1、8/27、12/9、3/5)開催しました。その他 WG 会議、メールによる稟議を行いました。また本委員会委員長として、今年度発足の「新資格制度を推進する特別委員会」に副委員長としてメンバーに加わり、委員会および幹事会を含め 10 回の討議に参加いたしました。またこれに対して、専門委員会として、これに沿った検討を行ったため、独自の検討作業は行いませんでした。

主な作業は以下のとおりです。

- ・ 資格制度アーカイブについての検討
- ・ 新資格制度を推進する特別委員会での議論に呼応し、職能・資格制度委員長と当委員会委員長の連名で意見書を提出(11 月 20 日、登録建築家と、一級建築士である統括設計専攻建築士、この両者全員に自動的に、三会統一認定による「統括一級建築士」の称号を与える、という提案)
- ・ 10 月 4 日、本社建築家資格制度実務委員会との共催で、JIA 別府大会マンス「建築家職能～その未来への礎(いしずえ)を探る」の企画および実施。
- ・ 建築家資格制度リーフレットの準備
- ・ その他本部建築家資格制度実務委員会と共同での検討事項の協議

2) 業務委員会

業務報酬基準改定運用と今後の課題についての継続的な意見交換や経費率に関する追加調査の実施をはじめ、随時国交省からの意見徴収要望に関する回答対応や、情報共有を行ってきました。以下に主な活動を報告します。

- ・ 業務委員会の実施: 第 213 回 4 月 9 日(火)、第 214 回 8 月 28 日(水)

- ・11月19日(火):国交省による業務報酬基準に関するヒアリング参加
- ・10月～:JIAによる業務報酬基準「経費率」アンケートの実施及び分析共有
- ・随時:国交省等からの各種意見照会への対応、各委員への情報共有

＜ワーキンググループ活動＞

①建賠 WG

建築に関する事故防止と建築家の責任の理解促進のため、主として以下の項目を実施しました。

- ・建築基準法改正(4号特例変更)・建築設備設計基準の章立て変更に伴い、約款を改正しました。
- ・JIA顧問弁護士の竹川忠芳先生をお招きして「建物の基本的安全性と建築家の責任」と題してセミナーを開催しました。
- ・東海支部・近畿支部でケンバイ勉強会を開催しました。
- ・建築に関する事故防止を目的に「JIA 建築家賠償責任保険図解事故例集(過去と現在の事故事例をふまえた分析と対策)」の発行に協力しました。
- ・建築家大会(2025 別府)における JIA マンスにおいて、建築家のチャレンジを支えるケンバイについての理解を深めるため、対談形式のセミナーを開催して多くの会員に参加いただいた。

②約款 WG

- ・「七会連合工事請負契約約款委員会」及び「四会連合建築設計・監理等委託契約約款研究会」活動と連動して WG を年 10 回開催し、JIA 会員としての意見集約を図り、具体的意見として提案を行いました。また両委員会に委員を選任し活動に参画しました。
- ・七会工事請負約款の調査研究活動として、下請約款部会、改修約款検討部会の活動に参画しています。
- ・建設業法改正に伴う「七会連合工事請負契約約款委員会」の各種約款類の一部改正案の作成活動に参画しています。
- ・四会連合建築設計・監理等委託契約約款の調査研究活動として、英語版の作成議論に積極的に参画しましたが、販売部数が期待されない等で四会連合としての予算措置困難として、他団体の賛同を得られず断念いたしました。

③仕様書 WG

国土交通省大臣官房官庁営繕部からの「公共建築工事標準仕様書令和 7 年版」の改定二次案(2024 年 8 月受領)への意見照会対応を行いました。

具体的には WG メンバーへの意見徴収を実施し、記載内容の変更や過不足項目等を一覧表に記載し、国交省営繕部宛回答を提出しています。なお二次案での JIA 意見の採用率は、「建築工事編」で 38%、「建築改修工事編」で 35%、「木造工事編」で 21%となっています。「標準仕様書」は令和 7 年 3 月末に改定リリースされています。

3)財務委員会

JIA の健全な財政のあり方として、受取会費と事業収益を軸とした経常収益の確保と本部・支部・地域会の収支・財務の健全化を図るとともに、会員減少の推移を踏まえた経常収支の安定を図っています。委員会ミッションに基づき下記の活動を行いました。

- ・収支の把握と分析(過去 10 年の正味財産増減推移確認)
- ・予算策定における提言(予算案の確認、重点項目の整理)

- ・公益目的事業費率について、正味財産増減推移における比率確認
- ・事業活動助成の審査(新規 6 件採択、報告 7 件承認)
- ・災害活動助成の審査(新規 1 件採択、報告 1 件承認)

4) 総務委員会

総務委員会のミッションは「本会の運営に関する総務事項の管理」です。全国の支部から参加する 12 名の委員を中心に、毎月の委員会で慎重な協議を行っています。

主な活動内容は下記のとおりです。

- ・入退会審査
- ・委員会構成審査
- ・準会員・協力会員入会申込書改正
- ・再入会の際の旧法人における滞納会費の取り扱い
- ・就業規程および定年後嘱託者再雇用規程改正
- ・後援名義使用許諾の手続きの明確化
- ・建築家資格制度細則および審査要項改正
- ・CPD 細則改正
- ・公益法人法制度改正対応
- ・JIAnet利用規約等の整備
- ・フェロー会員推薦審査

＜ワーキンググループ活動＞

①知財 WG

知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会および知的生産者選定支援機構の活動に対応する JIA 内部組織として、昨年度に引き続き法整備連絡協議会およびシンポジウムの事務局支援をしました。

また、選定支援機構の運営改善に向けた検討および、プロポーザル等の運用に係る課題の整理と地方自治体への提案についての検討・議論を進め、次年度に継続することとしました。

5) 広報委員会

広報委員会の主たる活動である「社会に向けた発信」について報告します。毎月の委員会では、各 WG 報告や各支部活動報告を受けて意見交換を行い、責務を果たすため真摯に取り組んでいます。

＜ワーキンググループ活動＞

①JIA マガジン編集 WG

会員の為になる誌面づくりに向けてコンテンツの充実に努力しています。また長年編集長を務めて頂いた坂牛卓さんが退任、434号から塩崎太伸さんと小林佐絵子さんの共同編集に交代しました。

②HP 保守 WG

ページ修正提案・トップページ写真選定と掲載など、HP 運用の方針を検討しました。常に HP の改修を行なっています。

③建築家 PR 動画推進 WG

JIA 公式Instagramへの投稿、リール動画の投稿を行なっています。専門家の意見も聞きなが

ら、建築家の活動を広報するための、新しいメディア戦略のあり方について継続的に議論を重ねています。

6)教育委員会

①若手会員への教育活動の活性化と、②一般市民への JIA のプレゼンスを高め、その認知度の向上を通して、地域社会における「建築および建築家の価値」の意識醸成を目的とした教育活動の実施を行いました。

①については3月2日～4日までの3日間、JIA リフレッシュセミナーを開催。各支部のご協力を得て全国から12名の会員の参加がありました。

②については9月28日に JIA フィールドトリップ(JIA 日本建築大賞受賞作品建築見学会・講演会)を開催。40名(JIA 会員21名、一般12名、学生7名)の参加がありました。

何れの事業も参加者より好評を得ており次年度以降の継続開催を目指しています。

7)表彰委員会

表彰委員会では、例年通り、日本建築大賞・優秀建築賞、新人賞、25 年賞、環境建築賞、あかりコンペを実施しました。

あかりコンペは大会で授賞式を行い、他4賞の表彰式は今後開催の予定です。

また、審査員の謝金について、平等性を優先し改定いたしました。

8)国際委員会

1. JIA が加盟する国際団体を通じての活動:UIA クアラルンプールフォーラムとスリランカで行われた ARCASIA Forum への参加を行いました。また、UIA カウンシル会議(チュニジア)へ参加しました。
2. JIA の協定締結国(協会)との定期的な活動:AIA 大会(ワシントン DC)、ASA 大会(バンコク)、KIA 大会(ソウル)に参加しました。
3. 他国建築家協会との協働イベント: IIA(インドネシア)の若手建築家と日本の建築家によるトークショーを主催しました。
4. 他国建築家協会来訪による活動:JIA 別府大会において International Presidents' Forum (AIA、ASA、KIRA、KIA、ARCASIA および SIA 参加)を主催しました。
5. JIA 支部等による都市間交流や視察の支援:九州支部(北福岡地域会、鹿児島地域会)と沖縄支部の国際活動をサポートしました。
6. その他:UIA の Social Habitat 委員会、ARCASIA の ACAE(教育委員会)の Web 会議参加などの委員会活動を行いました。また、アメリカ、香港、ドイツの学生や中国の建築家の訪問を受け、東京の建築ツアーや講演会を主催しました。

9)CPD 評議会

毎月1回 CPD プログラムおよびプロバイダーの認定審査を行う評議会を開催しました。なお、プログラム開催月が同月評議会前のプログラムについては、2名の委員でメール審査を行っています。

今年度、認定したプログラム数は、グループ認定を含め、1,600件、プロバイダー数は6件でした。

また、昨年から検討されておりました、罹災証明発行に係る被害認定調査、建築相談などの災害支援活動についても応急危険度判定活動と同様、事後認定が行われるようになり、細則の改定も行いました。

2. 必要時に立ち上げる委員会

1) 選挙管理委員会

10 月 11 日開催の第 1 回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日程等を決定し、11 月 15 日に第 1 回告示を行いました。12 月 25 日の立候補締切り日までに理事候補者、監事候補者とも候補者数と定員が同数であったため、投票は実施せず、候補者確定の第 2 回告示を 1 月 15 日に行いました。候補者等については前述の「V 本部役員候補者選挙」に記載しています。

2) 名誉会員選考委員会

2024 年度通常総会に推挙する名誉会員について、5 月 16 日に委員会を開催し、会長推薦 1 名、支部推薦 4 名、海外推薦 4 名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

【会長推薦】 六鹿正治会員(関東甲信越支部)

【支部推薦】 豊嶋守会員(北海道支部)
南條洋雄会員(関東甲信越支部)
森暢郎会員(関東甲信越支部)
山城東雄会員(沖縄支部)

【海外推薦】 キンバリーダウデル氏(AIA 会長)
アセースカヤン氏(ASA 会長)
キムジェロク氏(KIRA 会長)
ハンヨングン氏(KIA 会長)

3. 特別委員会

1) BIM 特別委員会

「BIM 図面審査」が 2025 年度末から実施されます。これに向けて建築BIM推進会議配下の審査 TF(タスクフォース)により、3 月に「建築確認における BIM 図面審査ガイドライン(案)」が入出力基準(案)、入出力基準適合申告書(案)、確認申請図書表現標準(素案)と合わせて公表されました。同時に運用のための確認申請用 CDE(共通データ環境)の構築も進められています。

当委員会は日本建築士事務所協会連合会、日本建築士連合会と連携し、これまでと同様に建築設計三会として、設計実務者が実際に使える仕組みも目指して、建築 BIM 推進会議、審査 TF 等と情報共有、意見交換を行いました。

2) オンライン/リモート対応や環境整備に特化した特別委員会

MNSの運用開始を目指し、全国の正会員を対象に運用テストを 5 月 20 日から 1 か月間、また、理事によるテストを 9 月 17 日より 3 週間行いました。合計 100 名程の参加が得られました。

並行して、利用規約と利用マニュアルの作成に取り掛かり、総務委員会と共に内容の確認を行い、合わせてJIA個人情報保護規程との整合を検討しました。

12 月 11 日の理事会にて、運用開始目標を 5 月 1 日、一般公開を 8 月 1 日と掲げられ、3 月、JIANet(ジェイアイエネット)に改称されました。

3)新資格制度を推進する特別委員会

5 月に本特別委員会が組織され、それまでの建築家資格制度の深い思索や実績を再認識しつつ、より効果的に公益に資するこれからの制度のあり方を議論してきました。

また、これは JIA だけでは成し得るものではなく、新資格制度のあり方の方針を模索しつつ建築関係団体と協議をスタートし、今後も協調して進めることの必要性を共有しました。具体的には、全支部長他が参加する全体会議と企画立案する幹事会で委員会を構成し以下の活動を行いました。

1. 新資格制度のあり方の方針案の作成(全体会議 4 回、幹事会 6 回、他)
2. 建築士会連合会への提案・意見交換会(10/9)
3. 別府大会(JIA マンス)への企画参加(10/25)

4. 全国会議

1)JIA環境会議

各月での会議を実施、毎回有意義な議論と情報交換を行いました。

別府大会に向けたマンス企画では、災害対策、まちづくり、保存再生各会議との四会議合同シンポを行いました。四会議で提言した「建築家の四つの心得」をみんなで共有し、深めていくためにも、今後も継続していきたいと思います。

カーボンニュートラル(以降CN)連続セミナーは、2024 年度からは本部予算によらない支部自立型として、四国、九州、東北の各支部から地域の活動でのCNの実践について報告が行われました。開催した支部の皆さんが、CNを自分事と考える機会になってます。

2)JIA保存再生会議

2024 年度も、災害対応に追われた一年でした。能登半島地震での文化財ドクター派遣事業に対しては、JIA のみが広域支援を前提とした体制を取りましたが、展開には課題が残りました。2025 年度もドクター事業は継続されますが、JIA マンス企画『4つの心得から考える「いつも」と「もしも」』では、多くの会員から、災害時の取り組みに力強い共感を頂けました。

文化財修復塾 WG は、持続的な制度運営に向けた議論が成熟しつつあります。

近現代建造物調査対応 WG では、今年度から始まった沖縄県と群馬県での近現代建造物緊急重点調査事業(文化庁)に調査員を推薦し、引き続き全国的な近現代建築のリスト整備に貢献していきます。

3)JIAまちづくり会議

JIA建築家大会 2024 別府大会において、3つのプログラムを企画・運営し、プレイベントで2つのシンポジウムを行いました。

1. 他の 3 会議と共催で、「JIA四つの心得から考える「いつも」と「もしも」～能登半島地震から見えてきたこと」と題し、2024 年元旦に起きた災害について、ディスカッションを行いました。
2. 「銭湯で人をつなぐ活動／別府のまちづくり／地域を活かす建築家のファシリテーション」という題で、栗生はるか氏、別府市役所の籠田真一郎氏に共同浴場の文化や歴史を学びました。
3. 開催地別府市で、地元の学生、一般市民と我々会員と一緒に、混成チームを構成してまち歩きを行い、引き続きまち歩きで探して来た各種ネタを「タカラ」と「アラ」に分けて分析し、改善案を作成・提案

するというワークショップを行いました。

2と3は前年度から始めた企画で、コロナ収束後、我々会員が部屋から出て、実際に市民と交流しながらまちづくりを行っていく、全国大会での経験を活かして地方へ広げて行く、という意図を持って行った活動で、反省会も含め会員相互のスキルアップと交流を促進する成果を共有できました。

4)JIA災害対策会議

令和6年能登半島地震に対し、勉強会の開催や情報提供などの支援活動を行いました。特に、みやぎボイスで得られた知見をもとに、のとボイスの開催に結び付け、行政や他団体などともに公益的活動を行っています。

また、4月に発災した日向灘地震では早期に対策本部の立ち上げと情報収集の協力などを行いました。関東甲信越支部が主催者となった、東京都の復興まちづくりシンポジウム「専門家とともに考える災害への備え」や、阪神淡路大震災から30年を迎えた近畿支部と兵庫地域会主催の連続シンポジウム「創造的復興は成し遂げられたか」への協力、別府大会のマンズ企画として開催したJIA四会議合同シンポジウム「JIA4つの心得から考える『いつも』と『もしも』能登半島地震からみえてきたこと」の開催など、災害対策に関するハブとして機能してきたように思われます。

その他、通年の業務として「JIA 災害対策支援ネットワーク」の更新や災害時に際してのJIAのDCP/BCPの策定に向けて活動を進めました。

5)JIA建築相談連携会議

各支部の建築相談委員会及び支部地域会相談室によって、相談の対象、記録の仕方など相談の仕組みは様々ですが、首都圏相談室の記録シートを参考にしたいとの声が多かったため、首都圏相談室の了解のもと、データを配布しました。今後も、取り組んでまいります。

6)JIA 住宅等連携会議

毎月1回全体会議を開催しました。

「小規模事務所のBIM推進WG」では、BIMの必要性を見直し、連続セミナー「アトリエ事務所のBIMを語る」を3回に渡り開催しました。

また業務報酬基準(告示第8号)の課題検討として、価格高騰等社会情勢、法改正、BIMの活用等による作業増の問題点を上げました。

社会発信では建築家の持つ多面的な役割や能力、社会的な課題の解決に取り組んでいる全10支部の建築家の活動取材してきました。

また設計事務所の新たな「働き方」から時代を乗り越えるためのヒントを見出す、シンポジウム「建築家、働き方をデザインする」を開催しました。会員の議論の場、情報交換の場を作ることで、建築家職能の認知度向上と会員の意識の向上に努めました。

7)その他の活動

全国卒業設計コンクール実行委員会

6月29日、建築家会館大ホール建築家会館大ホールに出品者が集合して、全国学生卒業設計コンクールを開催しました。

全国から選抜された優秀作品 51 点を審査し、金賞 1 作品、銀賞 2 作品、審査委員特別賞 4 作品を決定しました。

VII 支部長報告

1. 北海道支部(小西彦仁支部長)

[2024 年度の主な活動]

- ・支部ホームページの更新。
- ・北海道アーキテクツ 2 回発行。
- ・JIA スクール、北海道赤レンガ建築賞、JIA 北海道支部学生卒業設計コンクール開催。
- ・旭川、道東地区の活動支援。
- ・JIA 法人協力会との連携として商品説明会の開催。
- ・北海道庁「きた住まいるビレッジ」事業の連携継続。
- ・建築関連団体との情報交換や協力を継続。
- ・札幌にデザインセンターを実現するための他団体との連携継続。
- ・近畿支部住宅部会との交流。
- ・2026 年度 JIA 建築家大会開催準備。

2. 東北支部(早坂陽支部長)

主要な事業として、「東北支部大会」「第 28 回東北建築学生賞」「第 3 回東北建築大賞審査会」を開催しました。中でも東北支部大会では、台南市建築師公会との交流を深めることができました。台南市と仙台市が文化交流都市として「観光、経済、産業、福祉、文化およびスポーツ分野の交流促進協定」を締結したご縁により、台湾から建築家 40 名が来日し、せんだいメディアテーク 1 階にて「わたしの家、あなたの家、そしてみんなの家 ～ Re-turning『Home』」と題したパネル・模型の展示および講演が行われました。東北支部会員の建築家による展示や、ディスカッション・講演会を通して、より深い交流を図ることができました。6 日間で延べ 2,000 人が来場され、実行委員会および協力会の皆様のご尽力と高いコミュニケーション能力の賜物であると深く感じております。

[2024 年度の主な活動]

1) JIA 東北建築家フォーラム 2024 5 月 15 日

【第一部】 第 3 回 JIA 東北建築大賞 2024 表彰式、審査員講評、大賞受賞者記念講演

【第二部】 ・基調講演 I「建築は地域社会をつくれるか」 講師:北山恒氏

・JIA 建築家大会 2024 別府 ご紹介 松山大会委員長

2) 東北公共建築設計懇談会 6 月 14 日

3) 建築設計関連団体東北サミット(三団体サミット) 6 月 14 日

4) JIA25 年賞支部審査 ・東北管内での応募作品 2 作品 支部審査会 8 月 30 日、9 月 14 日、10 月 11 日
2 作品全て 25 年選として本部へ推薦。

5) 地域会対抗芋煮会 in 山形 9 月 14 日 会場:山形市西公園 53 名参加、6 鍋出品、山形内陸鍋が優勝。

6) 巡回建築展「建築家の仕事」

青森県弘前市 4 月 20 日-21 日、十和田市 10 月 19 日-20 日にて講演会開催と共に、東北 6 地域会建

建築家の作品パネル展覧会を開催。

7) 第 28 回 JIA 東北建築学生賞公開審査会 10 月 4 日

応募 11 校 12 学科 36 作品

8) 第 3 回 JIA 東北建築大賞 2024 応募 20 作品

第一次審査会 提出書類を確認し、11 月 18 日全作品通過を応募者へ通知。

第二次審査会 12 月 4 日、6 作品を第三次審査へ選出。

第三次審査会(現地ヒアリング) 3 月 15 日-17 日

最終審査会 3 月 17 日

9) JIA 東北建築家大会 2024 仙台(JIA 東北支部&台南建築家交流大会 2024in 宮城)

テーマ「わたしの家、あなたの家、そしてみんなの家 ～ Re-turning 『Home』」

会場: せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

11 月 5 日-10 日に渡って、東北支部大会と JIA 宮城アーキテクツウィークも兼ね、台湾・東北双方の建築家による展示をはじめ、シンポジウム、トークセッション、ネットワーキングイベントなど、多彩なプログラムを実施。

10) 建築学生テクニカル・セミナー2024 11 月 9 日

学生賞特別賞受賞作 2 作品の詳細プレゼンと、法人協力会員からの技術提案を通し、建築形成のテクニカルな知識の習得など建築デザイン教育の一環として開催。

11) JIA 東北支部新年会 2 月 7 日

12) JIA 東北学生卒業設計コンクール 2 月 28 日

応募 10 作品中 3 作品を全国へ選出。

3. 関東甲信越支部(渡邊太海支部長)

JIA 活動の基本は社会貢献であることだと思います。快適で安全で美しく健康な建築をつくるのが公益に繋がり、建築家の定義や職能の確立につながるものであることを念頭に以下の活動を掲げました。

1. JIA 活動の活性化と建築家の職能の確立について

- ・ 一般の人の視点に立ち建築家とはどのような職業なのか、わかりやすく提示することを掲げ、本部特別委員会では実施している資格制度の今後について、役員会、委員会、地域会サミット、ブリテンなどあらゆる機会に会員に報告しました。
- ・ 社会公益活動では災害対策について東京都を含む他団体と取り組みを共有しあう連携会議の担当になり委員会を中心に取り組みました。
- ・ メルマガを中心とする広報に取り組み、魅力的な紙面になるようレイアウトなど見直しをしました。
- ・ 例年通り卒業設計コンクールを県域各地域会で実施、将来を担う学生に建築の楽しさや奥深さを伝えるとともに、JIA の存在を一般の人に発信しました。

2. 建築家の職能及び資質の向上を推進について

建築家が能力を十分に発揮できる環境を目指しました。

- ・ 国交省からの情報を常任幹事会でダイジェスト版を作成し、タイムリーに支部 HP に掲載しました。
- ・ 発注者支援業務については、2～3 件問い合わせをいただきました。発注者側の様々な要望を整理し JIA 側で取り組める範囲など議論しました。今後具体的に動き出す事例も出てきました。

3. 建築家が社会貢献しやすい組織づくりを推進について

建築家が共に研鑽し、交流する場を整え、安定した継続体制を目指しました。

- ・ 2025 年 JIA 全国大会千葉にむけて実行委員会を中心に関東甲信越支部一体で取り組む体制を整えました。
- ・ 地域会、委員会、法人協力会と連携し全国大会千葉への参加と協力を呼び掛ける機会(新春の集い、サミットなど)を多く設け正会員参加を促しました。
- ・ 支部執行部が地域会をすべてまわることを掲げ、地域会の現状と課題を支部執行部一緒になり検討しました。全会員がすべて地域会に所属することが規約にあることを伝え今後徹底することを伝えました。
- ・ JIAnet の利用を役員会等実演し呼びかけを行い、支部地域会の会員増強や名簿作成を促しました。
- ・ 役員会、サミットなど建築家会館で実施される集合式の会議のあと、参加者が気軽に懇談できる建築家会館のバーを開放するアベロを開催し、会員同士の交流を深めました。

4. 東海支部(浅井裕雄支部長)

振り返れば、2024 年は能登半島地震という災害から始まりました。この出来事を契機に、私たちは改めて災害と向き合い、何ができるのかを深く考える一年となりました。有志による能登の震災現場への訪問は、その甚大な被害を肌で感じ、今後の活動の糧とする貴重な経験となりました。また、災害対策連携セミナーも開催することができました

支部の事業運営においては、各事業担当者からのヒアリングを通して、その実施主体やコスト構造を改めて整理し、詳細を把握いたしました。また、デジタル化を推進することで事務局の作業負担を軽減し、ペーパーレス化を実現いたしました。さらに、財政諮問委員会の設立により、支部財政の課題整理を進めております。これらのプロセスは、支部運営の簡素化と財政の見直しを進める上で重要な一歩となりました。

また、若手建築家との交流は、JIA にとって持続的な活動の重要な一歩です。各地域会イベントへの積極的な参加を通して、地域に根差した活動とその主体者の方々と直接交流し、意見交換できたことは、大変有意義でした。加えて、賛助会員との連携や会員との関係性のアップグレードを図る取り組みも、少しずつ前に進んでいます。

■財政諮問委員会(支部未来戦略会議へ名称変更)

5 回開催し、支部財政の現状把握を進めました。あわせて、事業運営やコスト構造、事務体制に関する課題、協力金の規模や会員の年齢構成といった支部運営全般の課題整理にも取り組みました。

■新資格制度

近年、建築設計業務はますます複雑・高度化し、社会からは統括的設計者の存在が強く求められています。新資格制度は、十分な経験と能力を有する設計者を社会的に認証する制度として構築を目指しています。また、建築家活動の国際化を視野に入れ、国際基準に適合する資格制度のあり方を最終形とし、建築士会連合会との協議により大筋での合意形成が見えてきました。

■事務局の改装計画

長い時間の蓄積において、モノはあふれていきます。事務局では段ボールの散乱と仕舞われた記録が多く存在していました。皆さんの協力により、不要なものなど処分されスペースも確保できまし

た。

■「ARCHITECT」誌の発行

今年度も毎月の発行を継続することができました。

■支部継続事業

- ・第 29 回 JIA 東海学生卒業設計コンクール
- ・第 11 回 JIA 東海住宅建築賞
- ・第 40 回 JIA 東海支部設計競技(テーマ「終い | 住か」)

■その他の事業

- ・山本理顕氏 プリツカー賞祝賀会の開催
- ・災害対策連続セミナー(愛知地域会共催)

5. 北陸支部(堂田重明支部長)

2024 年度は予想もなかった能登半島地震によって、甚大な被害の復旧に追われる一年となりました。

特に石川県においては、能登地域のインフラの復旧の遅れと共に、被災住宅相談や被害認定二次調査も技術者不足となり、建築家協会をはじめ、建築三会も調査や住宅相談の支援を行ってきました。また、被害住宅の悉皆調査の支援も行ってきました。

各地域会の活動としては、若手育成や会員拡大に伴う事業展開をしてまいりました。

[2024 年度 主な事業活動]

1. 能登半島地震勉強会(6 回開催)リモート(全国ネット)
2. JIA 北陸支部石川地域会が主体となって(一社)能登復興建築人会議の設立
3. 建築人会議が協同主催する「能登ボイス」への主体的な参画(金沢市、能登七尾市於開催)
4. JIA 北陸支部大会 2024in 福井
5. 全国学生卒業設計コンクール北陸支部で審査会
6. 次世代育成活動
 - 1)「青少年の育成事業」(福井地域会): 高校生のための建築ワークショップ
 - 2)「JIA こども建築塾」(石川地域会): サマーキャンプ(小学生対象のツリーハウス製作)、高校生のための建築ワークショップ(2 回開催)、こどもけんちく塾(金沢ベイエリア(5 回開催))
 - 3)「ONE ワク 2024」(富山地域会): まちとつながる小さなフォーリー
7. 防災フォーラム(富山建築三会合同事業): JR 富山駅構内
8. 建築文化講演会(福井地域会): 「出来事としての建築」山崎 健太郎氏
9. 記念講演会(石川地域会): 「都市と地方をかきまぜる」高橋 博之氏
10. 技術フォーラム(富山地域会): 「循環を生み出す建築」サスティナブルな暮らし

6. 近畿支部(松尾和生支部長)

2024 年度は、建設物価のみならず、食品など生活必需品を含め上昇、ここに人口減少が拍車をかけ、全ての物価上昇が著しい年であった様に思います。米国による関税策は全世界に不調和音を生み、貿易を商う企業はその不透明な国際情勢に右往左往する事態に陥っています。そんな中でも次年度開催の大阪・関西万博 2025 の準備は建設界の総力を挙げ、開催に向けて着実に工事が進んできました。ネガティブ報道の多い中でも、明るい未来に向けた建設人の膨大なご尽力に感謝と敬意を感じざるを得ない年度となりました。

この万博開催が世界平和に繋がることを切に望みます。そんな中で、リアルな社会からの要請なのか、悲鳴なのか、JIA の公益的発注者支援が増加した一年でもありました。一般社会が、リアルな判断と創造力を併せ持つ建築家職能を必要とし始めています。

又、今年度は阪神淡路大震災 30 年目の年にあたり、その教訓をもう一度思い返し、JIA が準備しておくことが何なのか、今一度、近畿支部では再整理し始めています。それに加え、少子高齢化の波は、JIA にも多大な影響を齎し、近畿支部会員数も日本の人口減少に比例し大幅に会員減少しています。この著しい社会変化と価値観の変化には「新時代」の公益活動に対応できる組織的改革も望まれます。近畿支部では、組織改革委員会を立上げ、未来の持続的な公益活動の為、今に適した支部と地域会の構成と予算管理を図りたいと考えています。社会が建築家職能を真に必要とし始めている昨今、JIA としての組織的環境整備が急がれます。JIA の未来を支える柔軟に組織改革をしながら、「頼れる建築家」として真の意味で社会から必要とされ、社会により認知されてゆくことが大切な時期ではないでしょうか。

[主要事項]

- ・JIA-K2 CUP、納涼会、工場見学会、忘年会、オンライン紹介ツアーの開催【協力会員委員会】
- ・建築家に知って欲しいシリーズセミナーの開催【マスターズ委員会】
- ・HP リニューアル、table4 発刊、メールマガジンの発行(12 回)【広報委員会】
- ・日韓中建築団体との協力事業【釜山国際建築大展、KIA 釜山、天津建築学会】
- ・「DIPLOMANIA」卒計コンクール入賞者の講評会の開催【青年委員会】
- ・第 17 回関西建築家大賞の実施【表彰委員会】
- ・卒業設計コンクールの開催【建築教育研究会】
- ・重要な勉強会 12「重点監理の範囲と責任」を開催【建築相談委員会】
- ・近畿支部通常総会及び関連事業「佐藤会長講演会」を開催
- ・阪神・淡路大震災 30 年連続シンポジウムを開催
- ・大阪府と在阪建築 4 団体との「省エネ住宅・建築物の普及啓発の協力に関する協定締結」
- ・餅飯殿センター街実施コンペ(業務支援活動)
- ・出江寛元 JIA 会長のお別れの会に協力
- ・第14 回景観まちづくりフォーラムを開催 他【滋賀地域会】
- ・建築と子供たち ワークショップ 建築家のしごと体験を開催 他【京都地域会】
- ・アーキテクツカフェ、すまいまちづくり育成塾を開催 他【兵庫地域会】
- ・クロストーク、会員事務所訪問など開催 他【大阪地域会】
- ・奈良県登録有形文化財所有者の会立ち上げサポート 他【奈良地域会】
- ・JW-1 グランプリ 2024、勉強会などを開催 他【和歌山地域会】

7. 中国支部(高志俊明支部長)

コロナ禍の影もすっかり薄れ、まるで遠い過去の出来事のように感じられるほど、かつての状況が戻ってきたように思います。対面での交流によって以前の活気が戻る一方で、オンラインという新たな手段も活用し、柔軟な活動形態を模索した一年となりました。今後も、対面とオンラインそれぞれの利点を活かした活用が重要になると感じています。

そのような中、2024 年度は支部としての組織を整備し、継続性・連続性のある事業運営への取り組みを開始しました。課題は依然として多いものの、次年度の事業についても早期にスタートを切ることができたため、

今後は時間や労力の削減も期待されます。

[主な活動]

1) 支部総会

役員改選が行われ、新たな体制でのスタートを切りました

2) JIA talk (JIA 中国支部建築家大会 IN 広島 2024)

公益性を重視した結果、会員外の参加者が半数以上を占め、有意義な大会となりました

3) 第 16 回 JIA 中国建築大賞 2024

改めて支部の事業を支部組織として実施することができ、専業設計者だけでなく、ゼネコン設計者などからも応募がありました

次年度への連続性も確保され、年度内に準備を開始することができました

4) JIA25 年建築選 支部審査

5) 卒業設計コンクール

6) アニュアルレポート(年 1 回)の発行

7) 田中智之の解体新書天[空間・建築・都市](山口地域会)

山口地域会にて、山口大学の学生と協働し、JIA 事業助成を受けて初めて取り組みました

8) 芝生の上の本棚コンテスト(広島地域会)

広島地域会にて、福山市教育委員会と共催し、JIA 事業助成を受けて第 1 回を開催後、今回で第 3 回を迎えることができました

高校生から大学院生まで幅広い応募があり、最優秀作品を実際に制作することができました

9) 各地域会での講演会・セミナー

以上、支部では組織的な事業運営を、地域会では多団体との協働による活動を主軸として展開しました。

8. 四国支部(伊月善彦支部長)

四国支部としての活動は、引き続き地域社会との連携を重視し、建築家としての社会的責任を再確認する一年となりました。昨年に引き続き、建設物価の高騰は我々の業界に深刻な影響を与え、地方都市でも計画の見直しや事業の延期が相次ぐ厳しい環境が続きました。しかし、こうした状況だからこそ、我々建築家はクライアントとの対話を重ね、地域に根ざした実現可能なデザインの提案に努めることが求められました。また、災害対策への関心も引き続き高まりました。他団体と連携協力し、建築家としてできる支援活動や情報共有を積極的に進め、地域社会への貢献を目指して活動を行いました。これらの経験を通じて、JIA 四国支部として、地域に「頼れる建築家」としての信頼を築き、社会と共に歩む姿勢を一層強化できたと思っています。2024 年度の経験を基に、今後も地域社会に寄り添い、建築を通じた社会貢献をさらに深めていきます。

[2024 年度 主な事業活動]

(1) JIA 四国支部大会 2024in 香川 5 月 25 日、会場: やしまーる

(2) 第 6 回 JIA 四国建築賞 2024

応募期間 5 月 1 日～6 月 30 日、応募数 30 作品 一般建築 20 作品、住宅 10 作品

(一次審査) 7 月 27 日(土) 愛媛県美術館(松山市)

(現地審査) 9 月 13 日～15 日

(表彰式) 12 月 14 日 ラ・ヴィータ 6F メゾホール(高知市)

(審査員)審査員長:城戸崎和佐氏、審査員:多田善昭氏、松村暢彦氏

(3)2050 カーボンニュートラル連続セミナー 第5期1回 9月27日、会場:徳島県木材利用創造センター人材育成棟大講義室(徳島市)+ZOOM Webinar

・基調講演「気候風土適応住宅と沖縄建築の変遷」講師:金城優氏(沖縄支部)

・各地域会の取り組み発表

(4)山本長水・細木茂両会員 JIA25 年賞受賞祝賀会 3月20日、会場:ラ・ヴィータホール(高知市)

(5)こどもけんちく学校 4月22日、会場:坂の上の雲ミュージアムイベントホール(松山市)、講師:眞田井良子、村上恵、白方賢吾、森本未菜美

(6)四国デザインフュージョン 12月14日~15日、会場:サンポート高松

(7)旧鳴門市庁舎お別れイベント 6月15日~16日

(8)同市民講座 大西麻貴講演会『愛される建築』

(9)サマーセミナー「住まいを「次世代へ」つなげる空き家活用ビジネスモデル」9月28日、会場:自由民権記念館 民権ホール、講師:渡邊享子氏

9. 九州支部(佐々木寿久支部長)

2024 年度は【みせる JIA】を理念に進めてきました。JIA が行っている公益活動をイベント・セミナー中心に会員・社会に向け魅せる。後進の為に JIA 活動を観せる。活動を行っている会員を広く社会に見せる。この方針をふまえて行った事業を報告致します。

(1) JIA 建築家大会 2024 別府の開催

「JIA 建築家大会 2024 別府」を 11 月 28 日より 30 日まで、大分県別府市の別府ビーコンプラザをメイン会場として開催しました。本大会では「建築の未来」をメインテーマに、本大会前 WEB セミナー(JIA マンス)・基調講演・シンポジウム・エクスカーショを中心に多岐にわたるプログラムが実施されました。皆様のおかげをもちまして、盛況のうちに幕を閉じることができました。大会に参加頂いた皆様、協賛頂いた団体・法人・個人の方々に心よりお礼申し上げます。

参加人数 680 名(登録者) 協賛企業 192 社

(2) 広報活動

ホームページに各支部・各地域会の情報をまとめ発信しています。また、フェイスブック・Instagram を新たに導入し【みせる JIA】を目指しました。

(3) デザインレビュー

学生設計コンクール、デザインレビューを運営サポートしています。3 月 22 日・23 日に実施しました。

(4) 第 2 回九州建築新人賞

第 2 回九州建築新人賞は、九州各地から非常にレベルの高い 19 作品が揃いました。その中で 1 次審査が行われ、8 作品を 2 次審査(現地審査)に選出いたしました。その後 8 作品の現地審査を実施し、2 月 24 日に開催された最終審査会にて、福岡ピノキオこども園(佐々木翔／INTERMEDIA) と HOUSE W(平野公平氏／平野公平建築設計事務所)の 2 名が第 2 回九州建築新人賞に決定しました。

(5)建築家派遣エコルサポート

小・中学校の児童を対象とした建築教育支援活動です。「総合的な学習の時間」に JIA 会員を派遣し、出前事業を数年にわたり実施しています。建築・都市に興味を持ってもらう意味で重要な事業だと考えています。

(6)九州ホームアンドビルディングショー 建築家セミナー

(7)アメリカ広葉樹協会 建築家セミナー

(8)熊本地震支援記録紙 発刊

平成 28 年 4 月の熊本地震に対して建築家としてどのように行動したかを、まとめた記録紙です。JIA のネットワークを活用し、今後起こりうる未曾有の災害に備え、災害地への支援に生かせることを願い発刊しました。

10. 沖縄支部(伊良波朝義支部長)

2019 年の支部長就任時から「頼れる JIA」、「学べる JIA」、「楽しめる JIA」を基本理念に掲げ、これまで毎年継続してきた公益事業を中心に、JIA の独自性を活かした活動を行ってまいりました。主な自主事業として「沖縄未来建築塾」や「国際交流事業」、「卒業設計作品選奨」、「建築文化講演会」、「与那原町商業地区まちづくり計画(委託事業)」、他会と共同して取り組んだ「現名護市庁舎のこれからを考える会」、「沖縄建築賞」、「沖縄建築賞作品見学会(バスツアー)」、「ティーダフラッグス(U-40 コンペ)」等、実に多くの事業を会員と共に実現して参りました。

日々変化する社会環境を的確にとらえ、地域に根ざした公益事業を展開し、社会から信頼され、頼られる建築家、JIA が認知される 1 年になったのではないのでしょうか。

[2024 年度の主な事業活動]

1)「機関紙かぬち」28 号発刊(通年事業)

1 年間の支部活動を総括する機関誌(海外対応英訳版)

2)「第 7 期沖縄未来建築塾」(11 月～2 月)

テーマ:居場所を作ろう・考えよう

3)「国際交流事業」(11 月 21 日)

AIA インターナショナルご一行を首里城や玉陵等へ案内・交流

4)「第 28 回卒業設計作品選奨公開審査」(3 月 8 日)

短大・専門・専修学校部門 9 作品、大学部門 10 作品、応募総数 19 作品

5)建築文化講演会(3 月 21 日)

講師:妹島和世氏 演題:環境と建築 聴講人数約 500 名

6)「現名護市庁舎のこれからを考える会」(通年事業)

実行委員会:建築設計三会(JIA 沖縄支部、建築士会、建築士事務所協会)

7)「第 10 回沖縄建築賞」公開審査(9 月 13 日)

審査委員長:古谷誠章氏 住宅部門 11 作品、一般建築部門 7 作品、リフォーム・リノベーション・コンバージョン部門 2 作品 応募総数 20 作品

8)「公共建築の日・公共建築月間講演会」(11 月 7 日)

講師:金野千恵氏 演題:公・私を支える共の環境

9)「第 13 回ティーダフラッグス(U-40 コンペ)2024 奥武山公園庭球場管理棟」

公開審査(12月24日)沖縄県主催 応募総数23作品

10)「第10回沖縄建築賞作品見学会(バスツアー)」(2月1日)

沖縄建築賞10回開催を記念し、両部門正賞・沖縄タイムス住宅新聞社賞の3作品見学会